











仏の結う我今佛に教るのをもとにうらなかりし時  
 母れまうまゝあ事と承く道心と修し難約若  
 乃<sup>あはれ</sup>徳なりとの結へむ又<sup>まよ</sup>摩耶夫人のたすく  
 大まとうこそうねいれたすくんわさなりゆ  
 母七月と<sup>い</sup>れだもをれと<sup>い</sup>ま考れ風いさそ  
 きてまゝのうらとわさ出<sup>い</sup>らあ<sup>い</sup>さいうら  
 つまやわが<sup>い</sup>り<sup>い</sup>座也結へされども仏とう  
 こそまうつ<sup>い</sup>母<sup>い</sup>う<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>け<sup>い</sup>て<sup>い</sup>ゆ<sup>い</sup>た<sup>い</sup>が<sup>い</sup>ひ<sup>い</sup>  
 座抱<sup>い</sup>ご<sup>い</sup>り<sup>い</sup>座<sup>い</sup>く<sup>い</sup>結<sup>い</sup>ひ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>摩<sup>い</sup>耶<sup>い</sup>  
 夫人の結う<sup>い</sup>親<sup>い</sup>る<sup>い</sup>我<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>は<sup>い</sup>と<sup>い</sup>親<sup>い</sup>結<sup>い</sup>へ<sup>い</sup>  
 さ也結ひけ<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>ご<sup>い</sup>の<sup>い</sup>結<sup>い</sup>り<sup>い</sup>ゆ<sup>い</sup>え<sup>い</sup>則<sup>い</sup>大<sup>い</sup>慈<sup>い</sup>心<sup>い</sup>  
 と<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>三<sup>い</sup>子<sup>い</sup>大<sup>い</sup>千<sup>い</sup>世<sup>い</sup>恩<sup>い</sup>と<sup>い</sup>照<sup>い</sup>し<sup>い</sup>結<sup>い</sup>ひ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>母<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>













づきまゝそのまゝなりつゝくぐんで回す筈ぢい  
 うんこくは善哉きやうくたひくぞれはあひ  
 毎一ころその活のさくろくごともく。旅生悪業が  
 むぢうこれいらんまむびらかりごともく。志げうこく  
 た。妙法これくちん度佛あつせんごんのめりく  
 めうしじなうん事うごびあうごひあが  
 しめひくく佛との話ひけきんた。おまうたきこ  
 りちび話ひく佛と志まはわよ度佛あつ一話ひ  
 りた。くそねくもせ話うまひううそゆせんご  
 志西のりもそくも五佛そのまれりしにま  
 く話ひしてそやとをれくも話よ。そのくは阿羅  
 其の者志やりかひ大目連くた。六志やうと珠たまたも。是と  
 あやしめ佛よト話なま

















三十一のあゆみのぞくくれちもあひ  
 ちんぢをいつてさゆくうまへの娘よちづとあひ  
 一ひぢちうれ草もままでみれおちよもくこ也  
 抜提何のえとくうつとそのとて七日がる。ちまうと  
 てけうとせど。そのよまうとて花うた。そのとをむ  
 ちひひ。菩提樹の葉も。ういほ涅槃と。ちまうと  
 くとれちんち。せんだんちも。依より進。うんや乃  
 ちひひ。そのものをあきれむ。あんま。これちも。ごと  
 ちが。うあ。う。あや。あ日。うらま地。よくまうと。  
 ちやうと。れや。ちゆ。うん。うらま。らひ。くれ  
 ちひひ。又。うれ。せ。ま。佛の。うら。う。う。と。お。か。ん  
 ちんち。その。う。か。里。れ。た。ま。う。は。た。た。よ。あ  
 ま。ち。い。た。ひ。れ。山。乃。の。う。ま。乃。雪。も。海。う。う。あ。う。

史記卷之七

六



したやましく。口振乃やことをせうく。なまごあひなる  
くびと乃終へん。世業のあつさうあや。わまは佛  
乃つらまことありき。わくこらうゆまごこと。今て夏  
あぐまの世さや終へんと。天のあやさ。地はあてあひ  
こころしう終ひき。そのそさ佛。世業とあられ  
れがめして。かつうゆらん乃やこと。ひくさ終  
るまご。志悔まうごんれゆえ。ながれあざやういま  
しくして。金指れうらひ。光のわくやうして。あ  
えれ終へ。慈悲乃ゆまれ。あひくさ。世業と  
ゆらんらうくめさるまご。ゆけさ。ゆらんらうと。ゆきく志  
終へ。世業ひくさるまご。むそく心佛れくく。と終  
えん終へ。母摩耶夫人。たうのまごんは。三十三天  
のわく。帝釈乃終へ。さうらんまご。うれむ乃うく

たのう。母志ごうく。まごうく。終ひらうが。佛心  
はひのまうく。たごろさ終へ。さうんまご。うらうりも  
八百ゆまごん。びくごり終ひく。まごひて。まんとく  
乃まごうと。たうまご。まごう。終へ。れごく。三  
象のえんせ。あうまご。うらうと。わく。あひまご。と。  
まごう。と。まごう。まご。あうらう。みごう。と。皆これ  
たう。れせ。わけ。まご。の。方便。母。あ。まご。わ。ひ。  
事。たう。は。あ。まご。ん。ま。や。う。ん。う。ま。ご。の。ま。ご。あ。ひ。  
ま。の。終。三。う。ん。一。ま。ご。の。風。よ。ら。り。わ。ん。ま。や。う。ま。ご。  
乃。終。の。月。ま。ご。う。母。ま。ご。ん。あ。ま。母。入。ま。ご。う。ま。ご。う。ま。ご。  
と。り。ま。ご。ま。ご。ん。だ。ん。ま。ご。の。ま。ご。ま。ご。う。ま。ご。う。ま。ご。う。  
す。あ。り。ら。う。ま。ご。う。ま。ご。う。ま。ご。う。ま。ご。う。ま。ご。う。ま。ご。う。ま。ご。う。  
世業。い。う。ま。ご。う。ま。ご。う。ま。ご。う。ま。ご。う。ま。ご。う。ま。ご。う。ま。ご。う。

らるるをうくまひの火と出しけひくやうな  
薪たきをうけて七日七夜を座の終り茶毗たい乃すなうり  
ハるる今うらのかりまぬれ海うみの地ちはたうぐも七日七夜  
けの殺ころ所ところあまひりそたうり多積たせきくく津  
金利かんとりとわらうくあつひハ天竺てんじくあつひつまうらう  
あやうまうあつてわがあつたさて座ざうや  
日般にばんと名な一いつ終しゆうよ法ほふさひくくそたありまうりあま  
乃なくくくあつてみちらうくはたりのなるま  
一いつ衆しゆうあまぞ他たうりけりあふれたうらうやこの  
つらうりあつて終しゆうひめさぞ生死しんじのたうく  
くいで海うみまうくうらたまやう釈しやく迦かれ二に子こ乃  
慈じ悲ひまうらうあつてまさぞうくくそあんど  
まぞ山やまうりもたうな海うみうりもたうな

御ごりよ菩ぼ薩ざつと名なうまもうらみまくりとれく  
まうあつて御ごり終しゆうも中ちゆうよ子こ二百にひやく人のや  
りうら帝たい釈しやくだうは御ごりてかうどけりなくも  
釈しやく迦かのうらうや終しゆうひ七しちカうれ座ざのかり  
て一代いちだいあやうりうとくうら終しゆうたうらうら  
何なにまう釈しやくのうらう終しゆうたうらうらわまうらう  
乃なその火ひうらあつてまぞあまぞうらまぞうらまぞうら  
あつて釈しやくのうらうらうらわまぞうらまぞうら  
いんやま世よの衆しゆうのまよらんまらうらうら  
と終しゆうの終しゆううら阿あ難なんハ百ひやく日にち回くわいうらうら  
うらうらひ終しゆうひくうらうらうらうらうらうら  
け海うみ風かぜうらうらうらうらうらうらうら  
阿あ難なん母ぼけくの終しゆうく海うみ三さんカれまをたうら

そのまゝに三つにわかれぬ。我一代の  
聖教とてみまゝに傳へし。其の傳へしは  
けり。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
らうん。らうん。一代の聖教とてみまゝに傳へし。  
ところ。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
つ。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
阿難の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
ま。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
じん。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
な。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
六年。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
その。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
乃。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。

其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
い。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
と。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
へ。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
な。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
川。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
み。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
一。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
四。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
く。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
百。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
ら。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。  
之。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。其の傳へしは。

子姪終ふとうとうさぐひ。二よハ初巻何難とぐんと  
 終ふとうとうさぐひ。三よハたうの初巻のわりし  
 て終はし終ふやうさぐひさぐひとさぐひ  
 二つ入らうられさぐひさぐひ何難と今つ夜  
 とう終ふ初巻とさぐひさぐひとさぐひ  
 とうよ。利益とさぐひさぐひとさぐひ  
 じくぬぬはとさぐひさぐひとさぐひ  
 ささやう山の観のさぐひさぐひとさぐひ  
 す。終ふさぐひさぐひとさぐひ  
 八や山のたうさぐひさぐひとさぐひ  
 再さぐひとさぐひとさぐひとさぐひ  
 してらうらうら一口何難とさぐひとさぐひ

向松堂蔵書目

京都寺町三条下ル町 書林めさぎや宗八

釋迦八相物語 五冊	近世往生傳 五冊	日課念佛投宿篇 一冊
同 一代記繪抄 二冊	南紀往生傳 三冊	同 士女訓 一冊
同 一生記 三冊	法海注生傳 二冊	同 要訓 一冊
律苑行事辨 十冊	地獄實有說 一冊	梵綱經迪蒙 三冊
空華隨筆 二冊	專念法語 三冊	梵經受學海 二冊
一枝記諸說辨斷 一冊	吉水鎌倉三法語 三冊	東域會佛利傳 一冊
聖德太子佛法語彙 一冊	十善戒法論 三冊	自傳上人法名傳 一冊
持世菩薩傳 一冊	十善戒のやう回縁とあつた ちやうとちやうとちやう	待定法師利益傳 二冊
諸忍和尚語録 一冊	戒法隨身記 三冊	生傳の苦いさぐひとさぐひ

大光普照集 <small>同作</small>	三冊	善惡業報因縁集	五冊	雲說和尚利益傳	二冊
以呂波門辯 <small>同作</small>	一冊	<small>善業と悪業の 因果を説く</small>		<small>和尚の利益を 説く</small>	
念佛醍醐秘要藏 <small>同作</small>	一冊	辯才天利益和談抄	二冊	一言其然句解	一冊
往生至要史略解 <small>向大伴</small>	二冊	<small>辯才天の利益を 説く</small>		證禪和尚行狀記	三冊
三部假名抄言釋	二冊	念佛双紙	一冊	同 續編	一冊
厭末和尚行狀記	一冊	<small>自安上人の 念佛の事</small>		奥羽念佛驗記 <small>無註和作</small>	三冊
臨終節要	二冊	念佛教誨 <small>泉和作</small>	一冊	<small>上人の念佛の 事</small>	
浄土勸化和讃	一冊	同 霊場記	七冊	浄土要思各抄 <small>向大伴</small>	二冊
浄土四要義	一冊	同 觀音靈驗記	五冊	<small>浄土の要思を 説く</small>	
愚迷癡心初抄	一冊	同 霊場記	七冊	一休佛鬼軍 <small>一休和作</small>	一冊
念死念佛集	三冊	洛陽の教 <small>天竺記</small>	一冊	土砂勸信記 <small>明惠大伴</small>	三冊
西方経路	一冊	<small>都立の寺の 事</small>		白隠施行歌 <small>一本</small>	一冊
勸修念佛記	二冊				
念佛追福編	一冊				
浄土唯心史	二冊				

聖德太子實録	二冊	甲庚秘録	一冊
同 苗會	六冊	圓光大師前知録	二冊
因果物語	二冊	同 盡孝説	二冊
<small>古今の因果の 事</small>		勸化言 <small>海智道作</small>	三冊
忍微和尚塔端記	一冊	同 後集 <small>日</small>	三冊
浄菜蓮進	一冊	同 百花園 <small>日</small>	五冊
阿弥陀裸物語	二冊	同 魏々篇 <small>日</small>	五冊
多住妻鏡	一冊	明惠上人草袋	二冊
蓮如上人代記繪抄	三冊	兵庫築島傳	五冊
同 一生記	六冊	賢門子行狀記	五冊
<small>上人の一代の 事</small>		極楽道中備安書	一冊
看命一堂金和解	一冊	盤桂禪師法語	二冊
略述大乗戒義	二冊	遺教經私抄 <small>和辭云</small>	二冊
		浄觸法要	一冊

